

第1分科会

「子どもの学びを支援する」共同・連携とは

～「共同・連携」の完全実施に向けてこれからの連携を考える～

研究推進委員会

1 はじめに

平成25年度から始まった「学校事務の共同・連携実施」に係る実践研究は4年が経過し、平成28年度には60グループ、平成29年度は71グループに増加している。開始年度から研究推進委員会課題Ⅱグループでは、県内の各グループから実践研究の計画や報告などの情報を提供していただき、活動分析を進めてきた。

県内の各グループはそれぞれのスタイルで様々な活動を行っているが、活動内容を知る機会や報告の場が少ないため、どのような活動をしているのかといった情報提供についての要望が多数寄せられている。

これを受け分科会では、前半に県内各地の4つの共同・連携グループによる実践発表を行い、共同・連携実施についての情報を会員へ提供し、活動への理解を深めてもらう機会とした。

さらに後半ではいわき市教育委員会の共同・連携実施担当者、いわき市事務研究会会長、共同・連携グループに参加している教頭先生2名、指導助言者、実践発表者を交えてのパネルディスカッションを行う。間近に迫った共同・連携の完全実施に向け、「子どもの学びを支援する」共同・連携について考える。

2 実践発表

(1) 「平成25年度からの西郷村グループの実践 ～グループ長引き継ぎ後の実践研究～」

発表者：県南地区 西郷村グループ 西郷第一中学校 碓川 木綿子

平成25年度に西郷村内小中学校8校で共同・連携の実践研究計画を立て、研究・実践が始まった。ところが、年度末に当時のグループ長が退職し、平成26年度から新たなグループ長が配置され、2年目の研究を継続して進めることになった。短時間での引き継ぎだったため、前年度のグループ活動の経緯や、実践の状況をうまく把握できないまま進めることになってしまった。

その後どのようにしてグループを運営したかを、当時のグループでの活動の経緯や体験を通して報告する。

(2) 「三町での共同・連携の実践 ～町村またぎの実践と教育関係団体との関わり～」

発表者：相双地区 広野・檜葉・双葉グループ 広野町立広野中学校 佐藤 一子

広野・檜葉・双葉グループは、平成27年度に3つの町にまたがって実践研究グループの指定を受け、8校7名で実践研究を進めてきた。平成25、26年度は広野中学校区グループとして小・中2校で実施している。現在、三町とも小中学校が同一校舎内にあるため、町ごとの連携は日常的に実施しやすい状況にある。

三町での共同・連携実施の実践は、実務研修のほか備品管理、校内会計、就学援助など共通の課題を分担して事務の標準化・効率化を目指し、継続して研究を行っている。会場は持ち回りでいい、校長会、教育委員会との連携も重要視している。毎回グループ会では校長講話を実施し、教育委員

会からは就学援助制度や地方税について講義をいただくなど、学校事務職員の意識と専門性の向上に大きな成果を上げている。平成29年度は新採用事務職員の研修・支援のための連携活動に取り組み始めた。今回は三町で行ってきた共同・連携実施の実践研究の内容と、校長会、教育委員会との関わりなどについて報告する。

(3)「教育を支援する学校事務の推進をめざして ～共同・連携実施から生まれたもの～」

発表者：いわき地区 いわき市平グループ いわき市立草野中学校 石川 宏子

平成27年度、いわき市内の小中学校事務担当者が参加する会議において研究発表をすることになっていた私たちは、その2年ほど前から研究発表に向けて研修を推進してきた。研究発表をするにあたり、共同・連携実施の通知文書にある目的を念頭に置き、私たちが取り組めることを模索し実践することで、学校事務職員間の相互理解を深め、またそれぞれの学校においては先生たちからの共同・連携実施に対しての理解を得られるものと考えてこの研究発表に取り組んできた。

実際の研究発表については「地域情報を教育活動に生かす学校間連携」という研究テーマを設定した。内容は、定番である学校事務職員の仕事のシステム化、改善や効率化ということから少し離れ、「職場体験・施設見学データブック」の作成に取り組んだ。

学区が共通している隣接の小中学校では、職場体験活動先や見学先が共通していることが多い。そのためお互いに情報を共有して1冊にまとめた資料集があれば、各学校の行事計画に生かすことができ、体験活動担当となった教員にとって、関連する仕事をスムーズに進めることができるのではないかと考えた。学校相互の過去数年間のデータ（情報）を持ち寄って、職場体験・施設見学先の情報と、見学の依頼文書や礼状を作成するシートなどをデータブックとしてまとめた。今回はその研究内容の一端を報告する。

(4)「学校事務共同・連携の展望と課題 ～へき地小規模校グループの実践から見えてきたこと～」

発表者：南会津地区 南会津町グループ西部班 南会津町立南会津中学校 若林 和徳

福島県の南西部に位置する南会津郡の中でも南部に位置する南会津町は、ほとんどを森林が占める地域である。広大な地域に7つの小学校と4つの中学校というへき地小規模校が点在しているのが南会津町の大きな特徴である。また、東部地区（旧田島町）と西部地区（旧伊南村・南郷村・館岩村）の間には一昔前までは泊まりがけでなければ行き来ができなかったというほどの大きな山道（駒止峠・中山峠）により隔てられていることも今回の研究実践に大きく影響している。

県教委からは「南会津町グループ」として1グループの指定を受けているが、峠を隔てた共同連携は難しいことから、東部地区グループ（田島小学校、田島第二小学校、桧沢小学校、荒海小学校、田島中学校、荒海中学校、檜沢中学校※）と西部地区グループ（館岩小学校、伊南小学校、南郷小学校、館岩中学校、南会津中学校）の二つに分けて実践を進めてきた。

今回は、その中から西部地区グループとして実践した内容と成果、活動によって見えてきた課題等を報告し、少しでも今後の福島県の「学校事務の共同・連携実施」を展望する材料になればと考える。

※檜沢中学校は平成28年度末に閉校

3 パネルディスカッション ～「子どもの学びを支援する」共同・連携とは～

平成30年度から完全実施となる「学校事務の共同・連携実施」に向け、いわき市の教育委員会と事務研の連携に着目した。今回、教育委員会の共同・連携担当管理主事、市事務研究会会長、事務職員未配置校として共同・連携グループ員として所属している教頭先生をパネラーに加え、指導助言者、4名の実践発表者とともに、パネルディスカッションを通して「子どもの学びを支援する」共同・連携について、今後の展望を参加者と一緒に考える。

【指導助言者】

福島県教育庁 義務教育課 管理主事 長谷川 浩 文 様

【パネリスト】

いわき市教育委員会

学校教育推進室学校教育課 管理主事 菅 野 輝 義 様

いわき市公立学校教育事務研究協議会長

いわき市立入遠野中学校長 日 野 俊 隆 様

いわき市立小白井小学校 教 頭 黒 澤 謙 悟 様

いわき市立白水小学校 教 頭 佐々木 豊 様

西郷村立西郷第一中学校 主任主査 萩 川 木綿子

広野町立広野中学校 主任主査 佐 藤 一 子

いわき市立草野中学校 主任主査 石 川 宏 子

南会津町立南会津中学校 主 査 若 林 和 徳

【コーディネーター】

福島県公立小中学校学校事務研究会 副会長 仲 澤 市 雄